



タイの民主花運動のリーダー、チャムロン・前バンコク知事を代表とする十二人の農業研修団が岡山を訪問したのを記念して、八月に結成された岡山国際協力機構（モハマッド・ライース代表）。その最初のプロジェクトとしてメンバー約十人が八日から四日間の日程でタイを訪問、チャムロン氏との再会を果たした。今後、東北タイの農業振興を支援していく予定だ。「岡山から世界へ」を合言葉に、第一歩を踏み出したメンバーに同行し、国際理解、協力のあり方、その意味を考えてみた。

（山成 孝治）

「ようこそ、いらっしやいました」。チャムロン氏の笑顔は、七月に岡山で会った時と変わりなかった。日焼けした精かな表情、ピンとした背筋。違っていたのは、岡山ではがっかりさせられたスーツ姿ではなく、おなじみの農民服だったことだ。

チャムロン氏の研修団は、干ばつなどで貧困にあえぐ東北タイの農業振興を目指し、岡山で約二週間、有機農業を学んだ。受け入れ母体となったアジア医師連絡協議会（AMDA）の菅波茂代表、岡山市高松農協の藤井虎

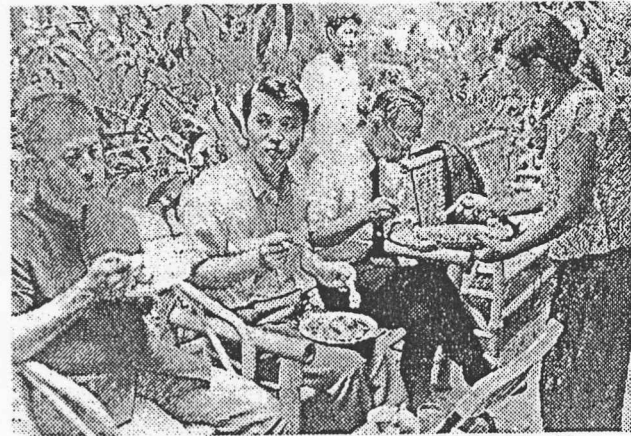
雄組合長らは今回、これからの支援のためにも、

## 変わらぬ農業思う気持ち

# 真の国際協力感じる

「まず現地を見よう」と訪問することにした。

訪ねたのは、首都バンコク郊外のナコーン・パトムにある農業共同体。チャムロン氏が信仰するタイ仏教の一派「サンティ・アナー」の僧、信者で作る「パトム・アナー」と呼ばれる村で、面積は



シリラックさん（右端）の手料理を食べる（左から）チャムロン氏、菅波代表、藤井組合長

の家もある。家といっても、手の幅で十二、二十七の大きさ（長さ約三メートル、幅約二メートル）。でも、妻と二人で住むには十分ですよ」と、チャムロン氏は笑って説明した。週末には必ずこちらに来て生活するのだそうだ。

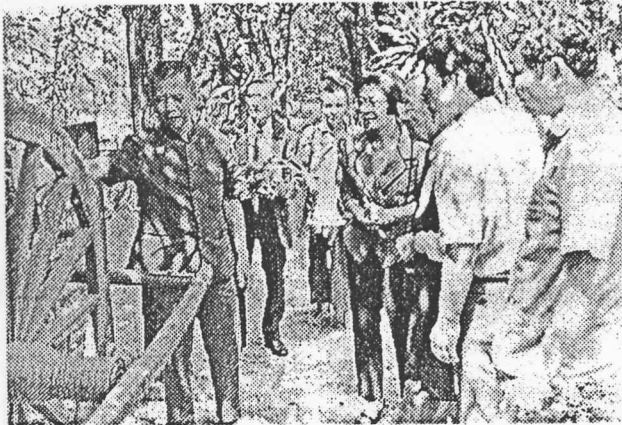
チャムロン氏の妻シリラックさんの手料理をこちそうになる。みんなで会食する時は、いつも仲間が手伝う。マッシュルームや大豆を油で揚げたもの、きのこ類が入ったピラフなど。殺生しないという戒律を守るため、日本でいう「精進料理」だ。チャムロン氏は黙々

と食べている。量は人の二倍になるだろうか、一日一食の源はこの量なのだろう。我々も負けず「おかわり」をした。

村の中を案内してもらった。小川があり、水車が回る。フルーツの王国、タイだけあって、果物も豊富だ。一角では、大規模な精進料理が盛り込まれたキノコの栽培なども組織的に行われている。

チャムロン氏は、岡山で「現在のタイの農業では、農薬や化学肥料に多くのお金がかかる。それで破産した農民がバンコクのスラムに流れ込んで来る」と話していた。藤井組合長は言う。「農業を金もうけの手段だと考えると、肉体的にもつらいし、これほどつまらないものはない。けれど、農業は医者と一緒。人間の生命の元となる食べ物を守り育てている。そう

村の中ですれ違う人たちは、胸の前で手を合わせ「サワディー・カー（こんにちは）」とあいさつしてくれる。国際協力というのは、このように地にしっかりと足をつけた人たちの間でこそ、ほんとうに成り立つのだ。そんな思いを強くした。



農業村の案内をするチャムロン氏（左）

# 岡山から世界へ

チャムロン氏訪問記



▷下◁

藤井虎雄・岡山市高松農協組合長がチャムロン氏に尋ねた。「農業の若い後継者が日本にはいない。タイでも同じではないか。チャムロンさんは後継者の問題をどう考えているのか」。チャムロン氏は「私は農業は素晴らしい職業だと思っ

て若い人たちにこのことを訴えている」と答えた。そして「日本の後継者がいないのはいいこと。農作物をタイから買ってくださ」と言っていて、笑いを誘った。

バンコク市内にあるチャムロン氏の事務所での懇談の中での会話。聞きよによって、チャムロン氏の言葉はとんでもないものにも思える。しかし、この言葉でお互いに笑えるのは、心の底で通じているからだ。ナコーン・パトムの農



メンバーとの歓談で笑顔を見せるチャムロン氏

## 本物の交流とは

### 宗教、文化の理解が基本

私はもう五十七歳。タイの平均寿命は六十年だから、農業にはすでに一・六倍もある敷地を確保し、農業指

導者学校設立に向け、計ら、残された時間はあまりない。これからは、タイのさまざまな面をリードしていく指導者を育てていきたい」と、チャムロン氏は話す。今回は時間の都合で見学できなかったが、カンチャナブリ

に、チャムロン氏は怒を覚えて何か語りかけた。女の子はにっこり。そして、チャムロン氏は手に持っていた果物を彼女に差し出した。あとで聞けば、チャムロン氏はバンコク知事時代、街に出て作業員とともに毎朝、街頭を清掃していたという。悪名高い大渋滞に巻き込まれてうんざりしたところ、歩道で清掃作業をしていた若い女の子

本立てで、農業ではチャムロン氏の農業指導者学校の支援や有機農法研修の受け入れなど、健康では、医師、看護婦、保健婦など医療従事者の研修受け入れなどを予定している。

これまで、アジアでの難民救援などさまざまなプロジェクトを実施してきたアジア医師連絡協議会（AMDA）の菅波茂代表は言う。「今回の訪問で、新たに発見したことがいくつもあった。国際協力はしっかりと相対理解がないと成立しな

海外へ渡航する人は多い。県内で生活する外国人も、年々増えている。これからは真の意味での国際協力が問われる時代だ。「岡山から世界へ」という目標を掲げ、発足した岡山国際協力機構にかかる期待は大きい。



バンコク市内にあるチャムロン氏の自宅を見学する岡山国際協力機構のメンバー